



第19回PSI運営委員会 2015年11月18日

テロリズムに関する緊急決議

2015年11月13日（金）、フランスの首都パリの6か所で同時多発テロが発生しました。この事件により129人が死亡し、少なくとも300人が負傷しました。国際公務労連と加盟組合は、攻撃の犠牲者や負傷者および家族の皆様にご心より哀悼と同情を表明するとともに、このような無分別で極端な暴力を非難します。

フランスの方々や労働組合の皆様をはじめ、残酷な攻撃の前線に従事するすべての救急労働者、医療保安関係者と、連帯を表明します。恐れず任務を果たす医師、病院関係者、救急スタッフ、警察、消防隊員の勇気は、公共サービスが社会で果たす重要な役割の証拠です。このような暴挙のさなかにおいて、私たちは公共サービスがいかに重要であるかを目にし、サービスの提供を弱体化させるのではなく強化する必要性を実感せざるをえません。こうした緊急事態では、人々の保安と安全を保証するために公共ガバナンスと公共サービスの提供がいかに重要であるかを思い知らされます。

労働組合組織として、PSIは一般市民を標的としたすべての暴力に対抗する立場を改めて表明し、世界にはびこる暴力的な攻撃を非難します。2015年3月18日には、チュニジアの首都、チュニスのバルド国立博物館が3度にわたるテロ攻撃の標的となり、23人が死亡、50人が負傷しました。6月26日には、チュニジアのリゾート地、スースで38人が死亡し、39人以上が負傷しました。10月31日には、エジプトのシナイ半島でロシアのチャーター機が攻撃を受け、乗客224人が死亡しました。こうした攻撃には、観光業を破壊し、失業を悪化させることによって、すでに脆弱な政府と経済をさらに弱体化させる目的があることも明らかです。

10月10日にアンカラを襲った残虐な爆撃では、平和デモ行進に参加していた人々の96人が死亡、250人が負傷しました。PSI加盟組合、DISKおよびKESK連合のメンバーは、クルド人とトルコ治安部隊の暴力の終焉を求める平和行進に参加しました。11月12日、フランスのテロ攻撃の前日、レバノンの首都では、イスラム国のテロリスト2人による自爆攻撃で43人が死亡、239人が負傷しました。さらに、ナイジェリアとカメルーンで続くボコ・ハラムのテロ行為も強く非難します。また、シリア、イラク、リビア、イエメン、サウジアラビアその他地域で生じる、一般市民を標的とした極端な暴力行為を強く非難します。

こうした攻撃は、恐れと恨みを増長させ、さらなる暴力を助長することが意図されています。こうした凶悪犯罪の実行犯とそれを支える人々の身元を突き止め、裁きにかける必要がありますが、同時にテロの根本要因を解決していかなければなりません。シリアとその周辺において、緊張が高まり、不安が続く中、誰かをスケープゴートにし、誤った方向に結論を急がないことが重要になります。戦地を逃れてこの地域を離れる難民は増える一方ですが、こうした状況を引き起こした紛争に平和的な解決策を見出すために力を合わせ、共に決意を固める必要があります。

平和なくして正義はありませんが、同様に、正義なくして平和もありえません。政府には外交ルートを通じた解決を求め、平和と正義の両方を約束できる政治的決断を導くよう訴えます。罪のない数千人もの市民の死によって、世界の南北両極で生じている新たな軍拡競争や市民権、政治的権利の抑圧を正当化することはできません。私たちは、テロリズムとの戦いという目標のもとで、言論の自由と結社の自由が侵害されないことがないよう、慎重に取り組む必要があります。その代わりに、一体的な社会の構築に欠かせない教育、保健その他の基本的な公共サービスに資金を投じることを求めます。

PSIと世界の加盟組合は万人の平和と寛容、正義、より良い未来のために団結し、連帯します。